



北出精肉店。

大阪府貝塚市で7代にわたって牛と、いのちと向き合い続けた者たち。

2012年3月。

代々使用してきた屠畜場が、102年の歴史に幕を下ろすことになった。  
過去から未来へ。最後の屠畜に際して北出一家はなにを想うのか。

いのちに寄り添う家族をやさしく、やさしくとらえた作品です。

このお肉を食べたい。  
できれば、主人公一家の食卓にまぎれこみ、一緒に頬張りたい。  
この映画は僕にあらためて、  
ひとがひととして生きていくための食することの幸福、  
そして、その喜びを与えてくれる厳しくも神々しい命のリレーの尊さを  
教えてくれた。

北出さん一家に寄り添うカメラの距離と存在が良い。  
そして、なんの銜もなく淡々と日々を重ねるこの家族こそが、  
わたしたちの原像たりえる、と確信した。  
崔洋一(映画監督)

牛が住宅街を歩いていく!!

屠畜のシーンは目をそむけるかと思ったけど引き込まれてしまった。  
(女性・山形国際ドキュメンタリー映画祭にて)

友達にこの映画を見ると伝えたら  
『ベジタリアンになるから止めなさい』と言われました。  
でもこれからもっと、お肉を食べよう!と思いました。  
(女性・釜山国際映画祭にて)

今度は子どもと一緒にみたいです!  
(男性・釜山国際映画祭にて)

登場人物が役者でないのに役者である。  
解体される牛までが“役者”だと言いたいほどだ。  
撮る者と撮られる者の信頼感が画面からにじみ出てる。  
見終わった後にまた見たくなる。何度見ても新鮮である。  
佐高信(評論家)

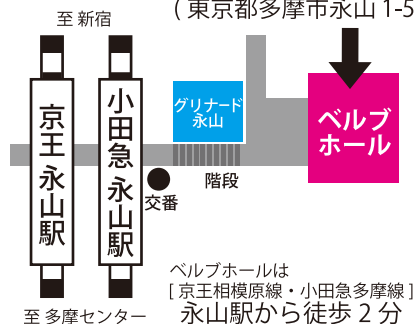
家族、街、働くということについて、  
とても大切な温かいものを教えてもらった気がします。  
もうしばらく、自分の中であたためて、  
じっくり熟成させてみます。  
制作にかかわったすべての方に感謝です。  
面白かった!  
(女性・30代・会社員)

映画に出てくる“手”が印象的だった。  
肉や皮を扱う北出さんたちの手が、とても優しかった。  
(女性・釜山国際映画祭にて)



『ある精肉店のはなし』公式ホームページより転載

会場：多摩市立永山公民館 ベルブ永山 5F  
(東京都多摩市永山1-5)



主催：TAMA 映画フォーラム実行委員会  
後援：多摩市教育委員会  
お問合せ(電話)：080-5450-7204(事務局直通)  
042-337-6661(永山公民館代表)  
※上映当日は 070-5580-9071(会場)へ

Twitter で最新情報をフォロー  
@tamaeiga

Facebook ページに「いいね!」で参加  
<http://www.facebook.com/tamaeiga>

次回特別上映会は… 6月7日(土)

(1) 11:00~12:18 (2) 13:30~14:48  
(3) 16:00~17:18 (4) 18:30~19:48

※チケットは『ある精肉店のはなし』と同額(表面をご覧ください)。前売チケットは5月6日(火・祝)一般発売予定です。

negative: nothing  
ネガティブ: ナッシング  
全てはその一歩から ドキュメンタリー映画

監督：ヤン・クヌーセル、ステファン・クヌーセル  
出演：トーマス・コーラ  
制作国：スイス、日本 制作年：2012年  
上映時間：1時間18分(日本語字幕付き)

東日本大震災後、日本を勇気づけたいと  
徒歩で日本を縦断したスイス人男性の記録映画

